

静岡県認定農業者協会だより

VOL : 33
2018年2月

〒420-0853 静岡市葵区追手町9-18（静岡中央ビル7F）
静岡県認定農業者協会（事務局：（一社）静岡県農業会議）森下・藤原
TEL 054-255-7934 FAX 054-273-4314

第21回全国農業担い手サミット in やまがた プレイベント 「担い手の農業経営発展促進セミナー」を調査

第21回全国農業担い手サミット in やまがたのプレイベントが、平成30年1月31日に山形国際交流プラザにおいて、認定農業者等220人が参加して開催された。水崎会長等が、県庁農業ビジネス課とともに現地を訪れ、静岡県開催に向けて運営方法等について調査を行った。

1 主催者挨拶（山形県認定農業者協会会長）

担い手の農業経営発展促進セミナーは、担い手の経営力向上や農業振興とともに、本年、山形県で開催される全国農業担い手サミットの機運を盛り上げるために開催する。

昨年設立された山形県認定農業者協議会にとっては初めての事業となるので、認定農業者の皆さんの結集と協力をお願いします。



プレイベント会場の様子

2 大会テーマ発表（202点の中から選定）

咲かせよう農の花！ 実らせよう豊かな日本！ ～樹氷のように輝きたくましい未来へ～

3 全国農業担い手サミット in こうち 参加報告

山形県からは準備委員や認定農業者等74人が全国農業担い手サミット in こうちに参加した。参加者代表の2人から全体会や現地研修会の様子が報告され、高知県では「おもてなしの心」を持って参加者を暖かく迎えてくれたことが紹介された。

4 講演（平成29年度全国優良経営体表彰農林水産大臣賞、経営局長賞の2経営体）

（1）農業をもっとおしゃれに（株）アグリたきもと 代表取締役 海道瑞穂氏（富山県）



株式会社アグリたきもと 海道社長

水稻61ha、大豆40haにジャンボ西瓜等を組み合わせた大規模水田農業を行っている。父親が1.5haで稲作を始め、高齢化が進んだ地域であったことから、急速に規模拡大して現在に至った。

平成22年の法人化を契機に、瑞穂氏が社長に就任し、女性の感性を生かした商品づくりやデザインの考案、男女別トイレや化粧直しができる休憩室等を設置し、おしゃれな農業を展開している。

農林水産大臣賞受賞のポイントは、①10年間で経営規模を7倍に拡大 ②高い生産性（米反収630kg、県平均566kg） ③高品質（米1等比率100%）の3点。

(2) 人を育て作物を育てる～おいしさを求めて～ (株)鈴生 社長 鈴木貴博 氏 (静岡県)

(株)鈴生は、本社、鈴木農園、モスファーム鈴生、協力生産者で構成され、静岡県内の7市において延べ100haの圃場でレタス、枝豆等を栽培している。

経営理念は、「おいしさを求めて」であり、種まきからお客様の口に入るまで、全ての過程で全力を尽くし、その思いがお客様に届くよう日々努力している。また、経営理念を実現するため、人づくりを重視しており、「(株)鈴生は温かい人がたくさんいる会社です。」と言われることを目指して、人材育成に取り組んでいる。



株式会社鈴生 鈴木社長

5 パネルトーク

上記の2人の講演者に山形県の3人の経営者が加わり、山形大学農業部教授の進行で、下記の2つをテーマにパネルトークが行われた。

(1) 規模拡大と地域との関わり

- ・多面的機能支払制度を活用して、地域ぐるみで草刈り等を行うとともに、子供たちを対象に環境教育の場として農地を活用することで、地域との関係を良好に保つよう努めている。(株奥山農園)



パネルトークの様相

- ・「地元の農地は地元で守る」を基本に、地域ぐるみで農地の管理をしている。雇用の創出でも、地域に貢献できればと考えている。(成田農産)
- ・果樹経営では、集積より集約が重要であり、地域の若手経営者が話し合い、少しずつ交換分合を進めている。(やまがたさくらんぼファーム)
- ・除草・草刈りの徹底や搬入路の整備に努め、地域の信頼を得るよう心掛けている。これが認められて、農地が集まってきたものと考えている。(アグリたきもと)

(2) 人材の確保・育成

- ・経営理念を共有できる人を採用している。また、人事評価制度により社員の成長や実績を昇給や昇進、ボーナスに反映することで、やる気を醸成している。(鈴生)

6 静岡県大会に向けて！！

挨拶やパネルトークの登壇者は全て認定農業者で、担い手が主体となって運営されていた。また、進行役は、前半が県庁職員、後半は農業会議職員が担当し、主催者が協力し一体となって運営していることを演出していた。

一方、サミットの大会テーマとセミナーの内容の一体感がなく、サミットに向けて決意を新たにするという雰囲気も感じられなかったことから、淡々と農業経営セミナーが行われたという印象であった。

翌日、山形県庁で確認したところ、昨年開催の高知県では従来から認定農業者協議会主催で農業経営セミナーが行われており、これをサミットのプレイベントに位置付けたとのことであった。山形県では、単純に高知県を真似て今回のセミナーを行ったことから、上記のような印象となったものと思われる。

山形県のプレイベントの良い点・悪い点を分析し、静岡県でのプレイベントにおいては、サミットに向けて担い手のやる気と元気を喚起できるような工夫をしていきたい。